

トモエ肥連全関東東海千葉地区拡販推進部会研修会 in 新潟

埼玉県熊谷市で日本一の暑さ記録を更新した同日、7月24・25日と新潟県にてトモエ肥料販売協同組合連合会（以下トモエ肥連）主催の全関東東海千葉地区拡販推進部会の現地研修会が行われた。トモエ肥連会員店12店22名、事務局、エムシー・ファーターティコム株式会社、当社合わせて36名の参加を得た。この拡販推進部会は賛助メーカーの協力を得てトモエ肥連の会員が持ち回りで現地研修会を企画しており、昨年の茨城に引き続いて今年は新潟県の株式会社ネイグル新潟の設営により研修会が行われた。

現地視察ではエムシー・ファーターティコム社の製品が使用されている水稻、枝豆、アスパラの圃場を視察することが出来た。ネイグル新潟では自社の展示圃場を設けて「天候不順に負けない」「省力」で且つ「生産者の利益追求」をキーワードとした肥料試験や栽培方法の検討が毎年行われている。また、指導する生産者に分かりやすく説明できる資料として毎年コメ作り暦を作成されており、本年度は「儲かる農業見つけ隊！」平成30年収益格差農業のスタート！と題してPRしている。先ず阿賀野市水原地区の自社展示圃場にて「甘うまミネラル栽培実践展示圃」を見学させて頂いた。本年の新潟の水稻は田植え直後の5月から6月の天候不順で初期生育が芳しくなく、7月に入って酷暑となり生育が一気に進み元肥一発肥料を利用した生産者の圃場は茎数が1～2割減、葉色も薄くて肥料切れのものが多く一目で見ても分かる状況となっていた。減反廃止元年で新潟県は目標作付面積を大きく超えているのだが、思惑と反した反収となるのではないかと現時点で懸念される生育状況となっている。見学した展示圃場は、トモエ化成に緩効性成分を強化したオリジナル肥料と土づくり肥料であるミネラル肥料を元肥に使用し、中期深水栽培法を駆使しており、葉色・有効茎を十分に確保した周囲の圃場を圧倒した稲姿を見学する事が出来た。この方法で毎年安定してコシヒカリで10俵超えを実現されておられるようだ。次に少し手間のかかるものの反収が高い野菜作りの提案としてこちらも自社圃場にてアスパラガスの栽培を実践している。今年は定植2年目で本格的に親指程度の太さのアスパラが取れたとの事。新発田市を中心に転作奨励作物としてアスパラが増えているものに対応した自社圃場となっている。



また、得意先の枝豆栽培生産者も見学することが出来た。この生産者は地元の農産物直売所に生産物を出されており誰よりも美味しい枝豆を作りたいとの事でエムシー・ファーターティコム社製の土づくり肥料と腐植入り有機化成を利用されている。視察した圃場ではネイグル新潟オリジナル肥料との比較展示圃が設けられていたが、両区とも肥料の特徴がそのまま素直に出た生育差が確認出来た。直売所も見学し出品している生産者の枝豆を食べ比べたのだが、最後に口に広がる甘味が他の生産者の枝豆とは全く異なり、利用する肥料の違いで味に差が出ることを再認識した次第であった。

最後に4名で50haを経営する大型農業法人の1枚の大きさが1haある圃場を見学した。この農業法人は経営面積の拡大により労働力の削減の為に元肥1回施肥のみで収穫まで安定した肥効を保つ肥料が欲しいとの事であった。今回新規に上市したトモエ化成に被覆尿素肥料を配合した早生用の肥料を酒米に利用されていた。例年だとしても追肥が欲しい状況となるそうなのだが、このような酷暑であるにも関わらず今年試した肥料は安定した葉色を示しており農業法人の評価ではまんざらでもない様子であった。この農業法人は食味も追及しており品評会でも優秀な成績を収められている篤

最後に4名で50haを経営する大型農業法人の1枚の大きさが1haある圃場を見学した。この農業法人は経営面積の拡大により労働力の削減の為に元肥1回施肥のみで収穫まで安定した肥効を保つ肥料が欲しいとの事であった。今回新規に上市したトモエ化成に被覆尿素肥料を配合した早生用の肥料を酒米に利用されていた。例年だとしても追肥が欲しい状況となるそうなのだが、このような酷暑であるにも関わらず今年試した肥料は安定した葉色を示しており農業法人の評価ではまんざらでもない様子であった。この農業法人は食味も追及しており品評会でも優秀な成績を収められている篤

(次ページへ続く)

(前ページより続く)

農家集団であり、メインのコシヒカリBL用の元肥一発肥料も試作して欲しいとの要望が出た。また、コメントとして追肥作業の手間が省けトータルコストを下げ、満足のいく生産物が出来て最終的に利益として帰ってくる肥料であれば今後も利用していくとの方針であった。今回の所感として、トモエ化成の特長を如何なく引き出し他社との差別化を図るネイグル新潟の取組に対し、参加された会員は一同にして感心された様子が伺えた。2日目では座学で新規上市した肥料の特徴と優良事例の報告がなされた。次回の冬期の現地研修は埼玉県で行う予定。

各地梅雨明け！夏本番スタート！！

この度の西日本豪雨により被害を受けられた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。ここ博多では、伝統行事である「博多祇園山笠」が7/1～7/15にかけて開催されました。「追い山の一番太鼓で梅雨が明ける」と言われていますが、今年は11日頃に梅雨明けしました。各地とも例年より早い梅雨入り梅雨明けになり中でも関東甲信は平年差で22日も早く、温暖化の影響を思わせませす。梅雨が明けてからは各地で連日の猛暑日となり、23日には埼玉県熊谷市で観測史上最高気温を更新する41.1℃となりました。ここまで暑いと猛暑というよりは、酷暑と言いたくなります。猛暑日が続く中、熱中症に関するニュースが連日報道されています。ご存じの通り熱中症は、汗をかくことで徐々に体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体温調節機能がうまく働かなくなり、体内に熱がこもった状態を指します。

◆熱中症の主な症状◆

- 軽度：・めまい、立ちくらみ、手足のしびれ、筋肉痛
- 中度：頭痛、吐き気（嘔吐）、倦怠感、虚脱感
- 重度：意識がない、痙攣、体温が高い、返事がおかしい

◆熱中症予防対策◆

- ・暑さを避ける：扇風機、エアコンで温度の調節、遮光カーテン、すだれ、打ち水日傘や帽子の着用、こまめな休憩、氷・冷たいタオルなどで体を冷やす。
- ・こまめな水分補給：室内外出時に問わず、こまめに水分、塩分や経口補水液等を補給する。自力で水が飲めない、意識がない場合は、直ぐに救急車を呼びましょう。特に高齢者や子どもは注意が必要で、十分に気を配ってほしい。

◆熱中症に効果的な食べ物◆

- ・梅干し…食塩、クエン酸ナトリウム、塩化カリウムなどが豊富。熱中症で失われやすい塩分やミネラル、疲労回復に効果的なクエン酸を含み、効率良く摂取できる。
- ・スイカ…約90%が水分で、糖分やカリウム、カルシウム、マグネシウム等のミネラルを豊富に含む。少量の食塩を加えれば、水分やミネラルと一緒に塩分補給もできる。
- ・豚肉…ビタミンB1を多く含み、たんぱく質も摂取することができる。熱中症の予防だけでなく、疲労回復効果で夏バテ防止にも役立つ。今晚のおかずには冷しゃぶはいかがでしょう。
- ・夏野菜…旬の夏野菜は、水分が多く、体を冷やす作用があります。例えばきゅうり、トマト、なす、とうもろこし、オクラ、ゴーヤなどがある。疲労回復に役立つビタミンB群や、体の調子を整え免疫力を高めてくれるビタミンCも多く含む。抗酸化力も高いので、美容・健康面での効果も期待できる。

まだまだ暑い夏は続きます。節電を意識するあまり室内で熱中症とならぬよう、無理な節電はせず、適切にエアコンや扇風機を使用して、この夏を乗り切ってください！（福岡支店）

台風12号により被害に遭われました方々には心よりお見舞い申し上げます。東側から上陸するという異例のルートを通ったこの台風ですが、改めて台風の恐ろしさを感じました。これから台風も多くなりますので、情報を収集して早め早めの対策をしていきたいと思えます。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>